

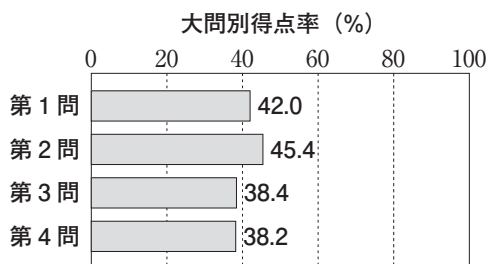
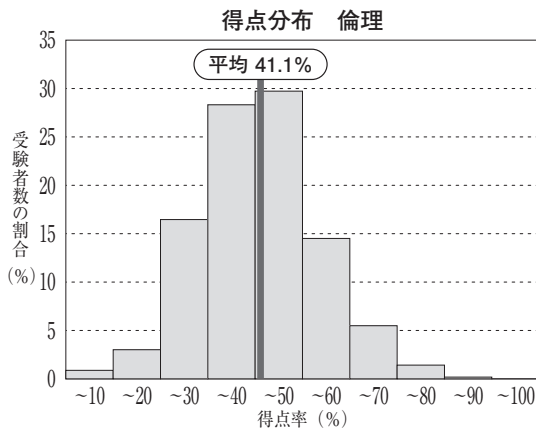
倫 理

夏休みが始まるまでに、倫理を学習したという足跡を残そう。

I. 全体講評

今回の「2018年度第2回4月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は、41.1点であった。前回2月の模試と比べて、約2点下落している。各大問の得点率を見ても、第1問、第2問が40%台で、第3問、第4問に至っては30%台と、いずれも低い水準であった。センター試験の倫理は、抽象的な用語も多く登場するように、決して簡単な科目ではない。いずれ学習しなければならない時は来る。そして、その時は早いほどよい。

模試を受ける意義は、来年1月のセンター試験本番で目標点を超えるべく、着実に一步一步前進していくことにある。センター試験の倫理で満足いく得点を取るためには、自分が間違えた問題をしっかりと復習し、二度と同じ誤りを繰り返さないようにする必要がある。今回、点数的に進歩がなかったとしても焦る必要はない。諦めず、学習を進めてほしい。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

センター試験・倫理の問題に対応できるようにしよう。

第1問の得点率は42.0%。正答率20%台が2問、30%台が4問という結果となった。地球環境問題に関する国際会議について問われた問6 [6]や、人権の国際化に関する条約について正面から問う問7 [7]の正答率が低いのはやむを得ないが、その他は問10 [10]を除いて青年期分野または現代社会分野の知識を素直に問う問題であり、これらの問題の正答率が低いのは残念な結果であった。また、問10 [10]は趣旨読解問題であるが、8択という形式もあって3割台の正答率であった。センター試験の倫理では各大問の最後にこのような問題が出題されるので、現代文の実力をつけて対応しよう。

第2問 源流思想分野

学習を積み重ね、正誤判断のポイントとなる語句を見つけられるようになるろう。

第2問の得点率は45.4%。問1 [11]や問2 [12]で出題された古代ギリシアの思想・哲学については、学習が徐々に進んでいるためか、ある程度の受験者は正答できていた。ただし、ヘレニズム時代の思想が問われた問3 [13]では、8択であったためか迷いが生じ、正答率が下がってしまっている。この問題はそれほど細かいことを述べているのではないので、自信を持って正誤判断できるようにしたい。また、問7 [17]は正答率が3割を下回っているが、「致良知」という用語が誰によるものかを知っていれば容易な問題であった。易姓革命を説明した③を選択した受験者の割合が高いのは、端的に学習不足である。日本の儒学者が受け入れなかった概念でもあるので、注意しておきたい。

第3問 日本思想分野

先入観やイメージで解答しないこと。

第3問の得点率は38.4%。正答率10%台の問題

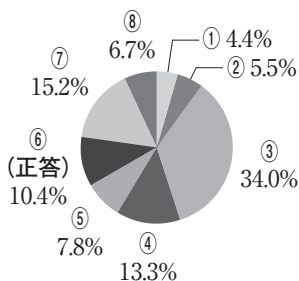
が2問あり、他の問題の正答率もそれほど高くなかったため、得点率もふるわなかった。正答率10%台のうちの一つである問1 [20]は、古代日本の倫理観を主題とする問題であった。ただし、三つの文がすべて正文という、受験者を悩ませるタイプの答えになっており、ほとんどの受験者が三つのうちいずれか二つが正文という選択肢を選んでしまった。三つの文がすべて正文というパターンもあり得るので、十分な知識を持った上で、先入観に迷わされずに解答を選択したい。もう一つの正答率10%台であった問題は伊藤仁斎の思想が問われた問4 [23]であった。約半数の受験者が③の中江藤樹の説明を選択している。多くの受験者が、学習に基づくのではなく、イメージに基づいて選択していることがよく分かる。江戸時代の思想家は重要ポイントであるから、しっかり区別できるようにしたい。

第4問 西洋近現代思想分野

教科書や用語集の記述を一つ一つ丁寧に押さえていこう。

第4問の得点率は38.2%。西洋近現代思想分野は学習の順番が後の方になることから、例年、この時期の第4問の得点率は低めになる。今回もその通りとなった。西洋近現代思想は難解であるから、教科書や用語集の記述を一つ一つ丁寧に押さえていこう。

問4 [32]の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。

問4 [32]は正答率が約10%であり、全問題中最低であった。ヘーゲルの思想を問う問題であるが、最も選択率が高かったのが、a~cすべて誤りの③であった。③を選んだ受験者はヘーゲルの思想をまったく学習していないのであろう。これはやむを

得ない面もある。ヘーゲルについて学習した後、この問題を解くときに正答を選んでもらえればそれでよい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆倫理全体のアウトラインをつかもう。

倫理の学習はこれからという受験者も多いだろうから、ここでは今後の学習の指針について概括的に述べたい。1学期は主要科目である英数国の基礎力強化を優先すべきである。とは言え、倫理は簡単な科目ではないから、何もしないまま夏休みを迎えては手遅れとなる。そこで、1学期は倫理全体の大きな流れをつかむことを最低限の目標としよう。できれば教科書を一通り見た上で、夏休みまでに初学者向けに丁寧に書かれた参考書を読み通すことに挑戦してほしい。

◆読解問題を落とさない。

センター試験の倫理では、本文の趣旨読解問題が出題される。しかし、今回の模試では、第1問、第2問の趣旨読解問題の正答率が30%前後であった。この種類の問題は倫理の普段の学習では対策がとりにくいので、同種の国語の問題で力を磨きたい。本番での趣旨読解問題の正答率は高いことが多い。必ず得点できるようにしよう。

◆次回の模試に向けて。

上述のように、主要科目に比べて倫理にはなかなか勉強の時間が割けないと思われる。だからこそ、東進の「センター試験本番レベル模試」をベースメーカーとして、2か月のサイクルで集中的に学習するのが効率的である。倫理全体の大きな流れをつかむことと並行して、今回の模試を反省材料として、「源流思想をまんべんなく押さえる」というように、次回に向けての目標を具体的に絞ろう。それを9か月間積み重ねていけば、本番では必ず高得点を得られるだろう。